

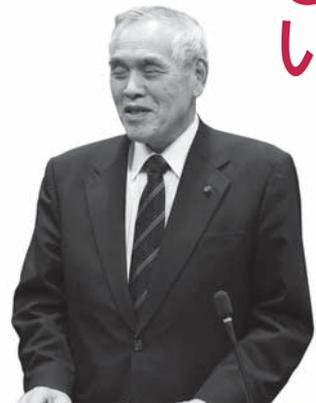
# 新病院を建設しても新たな 医師確保は難しい

**質問** 新市立病院建設問題については、

産科や小児科、脳外科などの充実を求め、期待の声がある一方、100億円を要する建設費と新病院経営の市財政に及ぼす影響への懸念もある。日本共産党市議団は、山形県酒田市の「日本海総合病院」と福島県須賀川市の「公立岩瀬病院」の視察や、奥州保健所長さん等との懇談で病院建設や病院運営、地域医療のあり方などについて学んできた。三者の共通認識は「病院が新しくなっても新たな医者は来ない。」ということだ。公立岩瀬病院の企業長は、医師確保のために週3回も大学病院に足を運んでいる。医師確保対策の考えは、また、地区内の医師会や県立病院との協議も重要と思うが実態と対策について伺う。

**市長** 医師確保については、これまでもしっかりと対応している。奥州市の医師会とは、病院建設について正式な協議等はまだ実施していない。市の考えをまとめた上で急ぎ対応したい。

**病院事業管理者** 新しい病院が出来ても医師を直ぐ確保できるとは考えていない。今いる医師や医療スタッフをし



及川 善男 議員(日本共産党)

っかり支えることが大切だ。

## 計画を見直すべきでは

**質問** 市立教育・保育施設再編計画は、水沢区内の公立一般幼児教育・保育施設を全廃するというものだ。公立幼稚園の廃止により、佐倉河や羽田、黒石地区などは幼稚園も保育所も無い新たな空白地域となるのではないかと。計画を見直すべきだ。

**市長** 学校に入る前の子どもの教育は、区ごとのまとまりだけで考えるべきでない。計画は100%コンクリートではない。



廃止予定の市立佐倉河幼稚園

# ゲーム機やスマホの使い過ぎの抑制を

**質問** ゲーム機やスマホの使い過ぎによる脳機能への悪影響が、東北大学の研究により指摘されている。奥州市教育委員会としても、各学校を通して、保護者や子どもたちに周知させていくべきである。

**教育委員長** 教育振興運動の中で危険性について講演会をした経緯がある。脳機能への悪影響について書かれているリーフレットなども、各学校で活用していきたい。

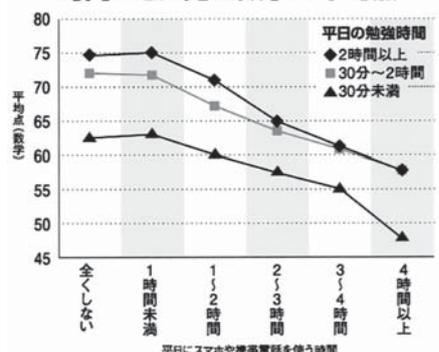
**質問** 使い過ぎの抑制のための取組みを一方ではなく、各家庭と学校との双方型にしていく必要がある。効果も測定できるようにしくみを作るべきと考える。

**教育委員長** 他の事例も参考にしながら、取り組んでいきたい。

## 在宅医療と地域の関わりは

**質問** 在宅医療と在宅介護において地域の間わりも大事である。どのような取組みを

スマホや携帯電話を使う時間ごとに見た数学の平均点



スマホの使い過ぎは成績にも影響(東北大学の研究:HPより)



飯坂 一也 議員(公明党)

**市長** 高齢者のニーズは増える傾向にあり、高齢者の生活支援や介護予防の取組みを専門職だけで支えることは難しくなってきた。自治会や町内会、老人クラブといった地域のつながりは財産であり、拠りどころでもある。お互いに助け合う気持ちを地域の中で、具体的な取組みにしていくことは、地域づくりにもつながるものと考えている。